株式会社クラレ「2026 年度第 2 四半期決算説明会」質疑応答要旨

日　時　　2026 年 8 月 7 日（金）　15:00～16:00
場　所　　クラレ本社 21 階 大ホール ※会場と配信のハイブリッドにて実施
出席者　　代表取締役社長　川原 仁
取締役 常務執行役員 ビニルアセテート樹脂カンパニー長 兼 ビニルアセテートフィルムカンパニー長　渡邊 知行
常務執行役員 経営企画室担当　藤原 純一
IR・広報部長　滝沢 慎一

１．主要製品の数量伸長率

	25 年上実績 →26 年上実績	26 年上実績 →26 年下見通し
ポバール樹脂	＋5%強	▲5%強
光学用ポバールフィルム	＋10%弱	約▲15%
高機能中間膜	約▲10%	▲5%強
水溶性ポバールフィルム	▲10%弱	約 15%
〈エバール〉	＋5%強	若干プラス
エラストマー	＋10%強	＋5%弱
〈ジェネスタ〉	＋20%弱	＋10%強
活性炭	若干プラス	＋10%強
〈クラロン〉	▲10%弱	約▲5%

２．質疑応答

Q　　見直し後の通期業績予想の利益増減要因について

A　　通期営業利益予想 700 億円は据え置いているものの、事業環境の変化を踏まえ、前年比の利益増減要因の内訳には変化が生じている。「数量」は、足元の需要が各事業で必ずしも力強くないことに加え、一部事業で操業度低下を織り込んだことから、従来見通しに比べて増益幅の縮小を見込んでいる。一方、原燃料価格上昇およびそれに対応した価格改定の進展により、「売値・構成」は大きな増益要因となり、「原燃料・為替」は大きな減益要因となる見込みである。なお、「売値・構成」の改善には、高機能中間膜の〈セントリグラス〉や繊維資材の〈ベクトラン〉といった高付加価値製品の拡販による販売構成の改善も含まれている。「その他」は在庫評価差額の影響を受けており、25 年度から 26 年度への持ち越し分と、26 年度から 27 年度への持ち越し分を反映し、増益要因となることを見込んでいる。

Q.　ビニルアセテートセグメントの事業環境について

A.　ポバール樹脂は、ホルムズ海峡情勢を受けた在庫積み増し需要の影響もあり、概ね計画どおりに推移している。ただし、下期は顧客における在庫調整の影響を織り込んでいる。

光学用ポバールフィルムは、部材の供給不安を背景とした需要の前倒しにより上期は好調であったが、下期はその反動による調整を見込んでいる。

高機能中間膜の PVB フィルムは、世界的な建築需要の低迷や競争激化により厳しい事業環境が続いている。一方、〈セントリグラス〉も世界的な建築需要減速の影響を受けているものの、建築プロジェクト自体が中止されたわけではなく、延期・停滞している状況である。今後、中東情勢が改善してくると、中東地域などで成長が期待される。

水溶性ポバールフィルムは、個包装洗剤用途の新製品が北米で販売開始となっている。これに伴う需要拡大と高付加価値品の拡販を背景に、26 年下期以降の収益拡大を見込んでいる。

〈エバール〉は、サーキュラーエコノミー関連需要の伸びが想定より緩やかであるものの、自動車用途が堅調であり計画を上回って推移している。一方で、下期は顧客における在庫調整の影響を見込んでいる。

Q.　機能材料セグメントの「売値・構成」改善要因について

A.　「売値・構成」の改善要因の一つは、活性炭事業における価格改定の進展である。ユーティリティコストや原料価格上昇分の価格転嫁が進み、上期・通期ともに収益改善に寄与している。加えて、PFAS 関連需要の拡大も価格改善要因の一部となっている。また、メタアクリル事業では、構造改革により不採算製品を縮小したことで製品構成が改善し、「売値・構成」のプラス要因となっている。

Q.　次期中期経営計画における収益性向上策および株主還元の考え方について

A.　26 年度の ROE は、25 年 2 月時点では 9%を見込んでいたが、足元の予想は 5%にとどまる。背景には、25 年の米国関税政策や 26 年の中東情勢の影響により、主力事業の需要低迷が長期化したことがある。一方、26 年後半以降は、新製品の上市やプロジェクトの進展による収益貢献を見込んでおり、ビニルアセテートセグメントの各事業、歯科材料、活性炭などを中心に業績回復を図る方針である。

なお、現在は、中期経営計画「PASSION 2026」および長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」の終了を見据え、新たな長期ビジョンの策定を進めている。事業ポートフォリオの高度化と構造改革を継続しながら、中長期の成長戦略を検討していく。27 年度は単年度計画とし、新たな長期ビジョンに基づく中期経営計画を 28 年度から開始する予定である。株主還元についても、「PASSION 2026」で拡充した方針を踏まえ、新たな長期ビジョンおよび中期経営計画の中で検討していく。

Q.　中長期の事業ポートフォリオにおけるビニルアセテートセグメント各事業の位置付けについて

A.　光学用ポバールフィルムは、当面は年率 2～3%程度の市場成長を背景に、利益を伴った拡大を続けると考えている。水溶性ポバールフィルムは、新製品の販売開始に加え、次世代品の開発プロジェクトも進展している。この数年成長率が停滞したが、27 年以降の成長を期待している。高機能中間膜は、引き続き〈セントリグラス〉を成長事業と位置付けている。一方、PVB フィルムについては競争環境の厳しさが増しており、高付加価値品を除き構造改革の対象として検討を進めている。

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性 があることをご了承ください。

以上